

山への思い（二〇一七年、二〇一八年 短歌九首）

斎藤 勲

「山と溪谷」掲載 来嶋靖生・選

二〇一七年二月一日 米山

季節風吹きだす山でただ一人霧氷飛び交う雪壁登る

二〇一七年三月十三日 粟ヶ岳

道標は海老の尻尾に覆われて飯豊は霞む黄砂風吹く

二〇一七年五月十六日 越後駒ヶ岳

石楠花の園を見下ろす青空に聳える駒ヶ岳は残雪光る

二〇一七年八月四日 火打山

池塘光る天狗の庭を見下ろしてアサギマダラは夏空を飛ぶ

二〇一七年十月四日 弥彦山

頂より見下ろす雨後の日本海波の彼方に米山霞む

二〇一七年十一月二十八日 谷川岳・西黒尾根

雪稜を崩して登る靴跡の白と青との雪の陰影

二〇一八年一月十五日 米山

ラッセルの一息つけば頸城野の南に麗し越の名香山

二〇一八年三月三日 白山

雪の尾根転がり落ちる友の背に「止まれ！」と念じ見守るばかり

二〇一八年六月八日 平標山

急登の木洩れ日浴びて登り来る小屋の歩荷の汗とめどなし